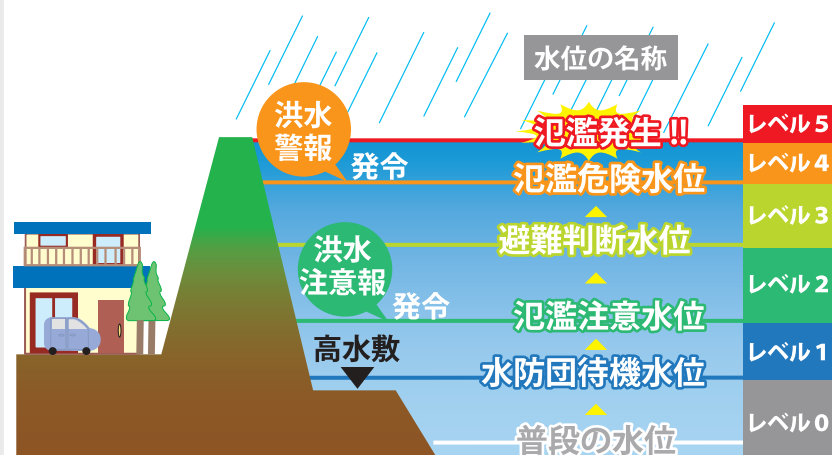


大雨 がもたらす危険とは？

①河川の増水・氾濫

国土交通省（帯広開発建設部）は、気象庁（釧路地方気象台）と共同して、あらかじめ指定した河川（町内の指定河川は、十勝川と札内川）の洪水予報を発表します。（洪水予報の伝達方法等は、P11 に記載しています。）
洪水予報は、報道機関のほか、気象庁や国土交通省のホームページからも閲覧することができます。

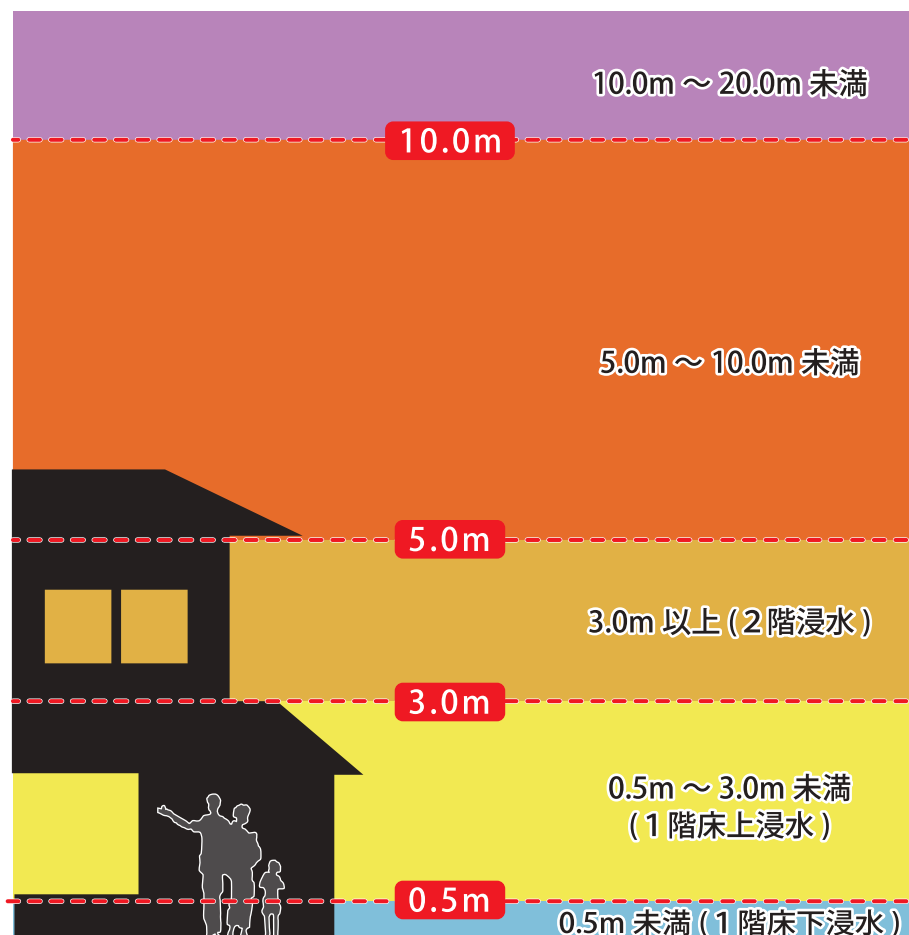


洪水予報	内 容
〇〇川 氾濫発生情報	災害がすでに発生していることを示す警戒レベル5に相当します。
〇〇川 氾濫危険情報	危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当します。
〇〇川 氾濫警戒情報	高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。
〇〇川 氾濫注意情報	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2に相当します。
発表なし	

②家屋の浸水・浸水深の目安

- 洪水（河川の氾濫）によって、市街地や家屋、畑が水で覆われることを浸水といい、その深さを浸水深といいます。（道路や農地が水で覆われることを冠水ということもあります。）
- 一般の家屋では、浸水深が 50cm 未満の場合は床下浸水、50cm 以上になると床上浸水する恐れがあり、3 m 以上では 2 階も浸水する恐れがあるため、2 階への避難ができません。
- ハザードマップにより、自宅が浸水するか、浸水深はどのくらいか、避難ルートは浸水するかなどを確認しておきましょう。

屋外での避難行動が困難



③土砂災害

土砂災害は、大雨、長雨、融雪、地震などがあつたときに、山や崖などの斜面が崩れ落ちていく災害です。近年は増加傾向にあり、突然発生することから被害が大きくなります。危険を察知するためには、事前に土砂災害に関する正しい知識を得ておくことが大切です。

急傾斜地の崩壊	土石流
地面に雨水や雪解け水が大量にしみこんだり、地震の揺れによって、急な斜面が突然一気に崩れ落ちる現象。 こんな前ぶれ現象が起きたら注意！ ■小石がばらばら落ちてくる。 ■斜面に割れ目ができる。 ■斜面から水が湧き出す。	山や谷の土や石が、大雨などでくずれ、水と混じってどろどろになり、激しく流れていく現象。 こんな前ぶれ現象が起きたら注意！ ■山鳴りがしたり、ドーンという音が、ゴロゴロという音がする。 ■雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。

土砂災害警戒区域等について

- ・土砂災害警戒区域（イエローゾーン）とは、土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域で、警戒避難体制を特に整備すべき区域です。
- ・土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）とは、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域で、一定の開発行為や居室を有する建築物の構造が規制されている区域です。
- ・幕別町の土砂災害警戒区域等の位置は別紙ハザードマップをご覧ください。また、土砂災害警戒区域等のハザードマップは、区域ごとに作成していますので、町のホームページをご覧ください。

強風・暴風 がもたらす危険とは？

- ・強風・暴風のときは、樹木が倒れたり、屋根が飛ばされたりするので外を歩くのは大変危険です。室内にいてもガラス窓に物が飛んできて割れることがあるので、カーテンを閉めることも大切です。
- ・また、電線が切れたり、平均風速 40m/s 以上では電柱が倒れて停電になることがあります。
- ・暴風警報、暴風雪警報、強風注意報が発表されたときは、その場に応じた行動を取り、停電に備えて非常備蓄品を準備しておきましょう。



暴風雪 がもたらす危険とは？

暴風雪に関する気象警報などが発表されたときは、不要不急の外出をしないことが身の安全を守るための最善の対策です。暴風雪から身を守るための対策を日頃から理解し、いざというときに備えてください。

家の中の対策 家の中でも暴風雪対策が必要です。次のような対策で、身の安全を確保できます。

- 一酸化炭素中毒防止のため、F F 式暖房機の給排気口付近の降雪状況を確認しましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオなどの準備をしておきましょう。
- ポータブルストーブやカセットコンロを使用する場合は、30分に一度は、しっかり換気しましょう。
- 外出できない場合に備えて、食料や飲料水、日頃から服用している薬などを備蓄しておきましょう。

外出時の対策 やむを得ず車で外出する場合は、万が一のために、防寒具、食料、スコップなどを用意しましょう。

車内対策

- 暴風雪によってホワイトアウトが発生すると、方向感覚を失い、道に迷う危険性があります。おさまるまで車内で待ちましょう。
- 近くにコンビニや道の駅がある場合には速やかに避難しましょう。
- マフラーが雪に埋まると一酸化炭素（CO）が充満して命に危険が及びます。吹きだまりに閉じ込められるなどの際にはエンジンを停止して、防寒具などで温かさを保ち、救助を待ちましょう。
- 冬場は燃料を十分に保ちましょう。



積乱雲の発生 がもたらす危険とは？

積乱雲は天気を急変させ、その下では竜巻、雷、ひょうや強い雨が発生し、大きな被害につながる場合があります。
積乱雲が近づいているサインに気づいたら、安全な場所に避難しましょう。

積乱雲が近づいているサイン

こんな時は安全な場所に避難しましょう

急に冷たい風が吹いてきた



真っ黒い雲が近づいてきた



雷の音が聞こえてきた



局所的大雨に注意！！

局所的大雨は積乱雲の発達により発生し、警報等が発令されていなくても急に強い雨が降り出し、短時間で河川が増水するなど急激に危険な状態になるものです。
また、自分のいる場所で雨が降っていても、上流に降った雨で急に川が増水することがあります。水かさが増し始め、濁った水や流木・落ち葉が流れてくるときは危険です。
すぐに川や水辺から離れましょう。



竜巻に注意！！

竜巻注意情報が出されたり、竜巻が発生していることに気づいたらすぐに身を守るための行動をとってください。

屋外にいたら…

- ・頑丈な建物の中へ避難する。
- ・避難できないときは物陰に入って身を小さくする。
- ・シャッターが開いていたら閉める。
- ・物置や車庫・プレハブ（仮設建築物）への避難は危険！



屋内では…

- ・窓やカーテンを閉めて窓から離れる。大きなガラス窓の下や周囲は大変危険。
- ・家の1階の窓のない部屋に移動する。
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。



雷に注意！！

遠くで雷の音がしたら、すでに危険な状況です。自分のいる場所にいつ落雷してもおかしくありません。雷は、雷雲の位置次第で海面、平野、山岳などところを選ばずに落ち、近くに高いものがあるとこれを通して落ちる傾向があります。

安全な場所

- ・鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーを除く）、バス、列車。

※屋外に比べれば木造建築の内部は安全ですが、すべての電気器具や天井・壁から1m以上離れるとさらに安全です。

危険な場所

- ・グラウンド、ゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などのひらけた場所。
- ・山頂や尾根などの高いところ。

※木のそばにいますと、木に落ちた雷が人に飛び移ることがあるので、必ず離れましょう。



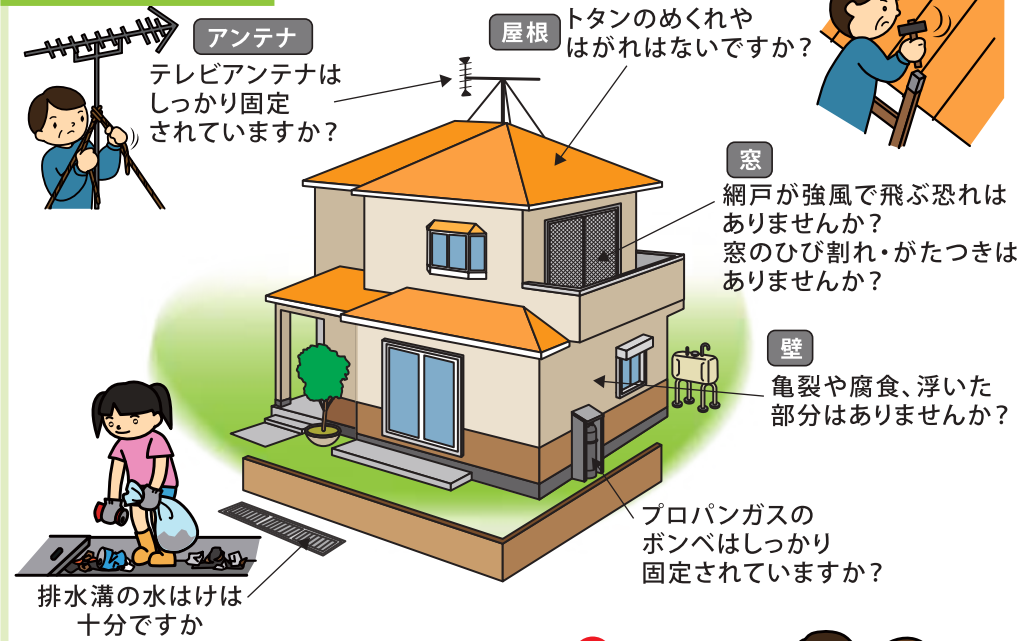
シルシル 防災

風水害②

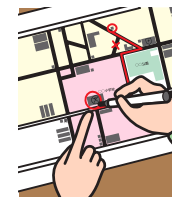
風水害に対して何をすべきか知っておこう！

風水害に備えよう！！

日頃からできること



！洪水ハザードマップで避難場所や避難経路を確認しよう！



！防災グッズを点検しよう！



危険が近づいてきたら

！情報を得る



！むやみに外出しない



！大雨の時は貴重品を2階へ



！強風の時は窓ガラスにガムテープを



！飛散の危険が高いものは室内に

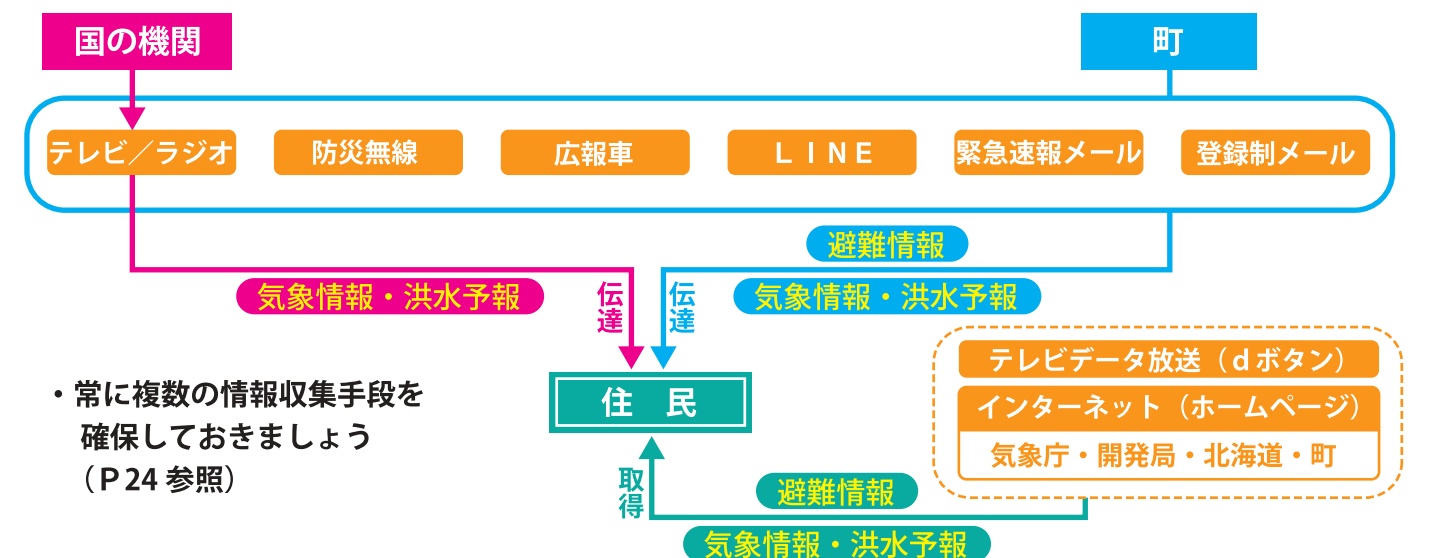


最新の気象情報を収集し、早めの防災行動をとりましょう！！

気象庁は、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、気象警報・注意報、特別警報などの気象情報を発表します。最新の気象情報を取得し、早めの防災行動をとりましょう。

注 意 報	大雨、洪水強風などによって災害が発生するおそれがある場合に発表
警 報	重大な災害が発生するおそれがある場合に発表
特別警報	警報の発表基準をはるかに超える大災害が起ると予想される場合に発表

気象情報や洪水予報、避難情報はどこで得るの？



警戒レベル4までに必ず避難を！

※災害発生情報を確実に把握することが難しいため、必ず発令するとは限りません。

警戒レベル3

「高齢者等避難」

状況

災害のおそれあり

住民がとるべき行動

＜避難に時間を要する方＞

危険な場所から避難してください。

＜その他の方＞

避難準備をしてください。

警戒レベル4

「避難指示」

状況

災害のおそれ高い

住民がとるべき行動

該当する地域の方は、

危険な場所から全員避難してください。

警戒レベル5

「緊急安全確保」

状況

災害発生又は切迫

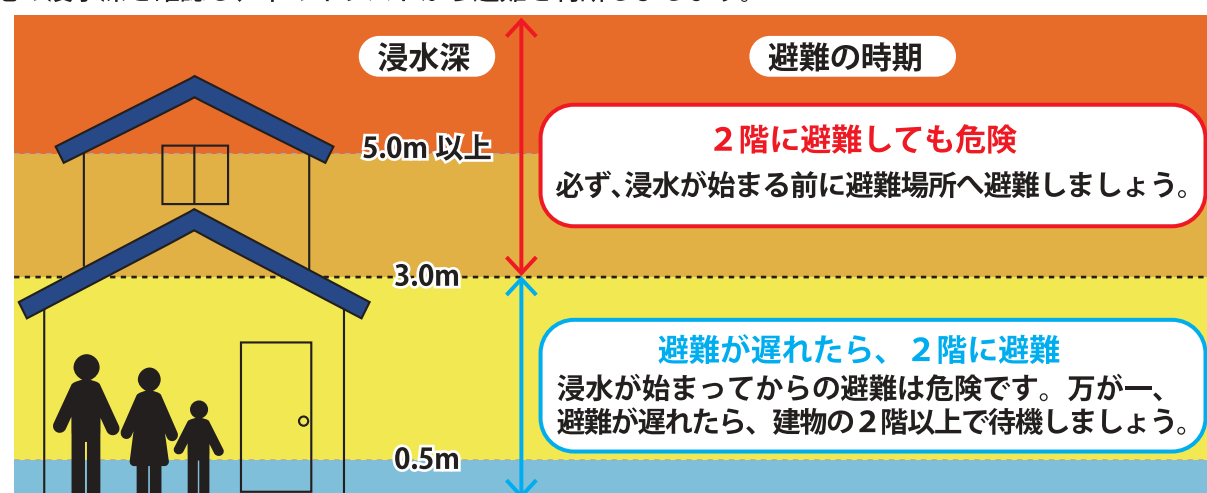
住民がとるべき行動

命の危険が迫っているため、

直ちに身の安全を確保してください。

！適切な避難の時期を確認しよう

洪水の正しい避難行動は、「浸水が始まる前に避難する」ですが、万が一の事態に備え、ハザードマップで自宅の浸水深を確認し、下のイラストから避難を判断しましょう。



避難するときの注意点 ！避難するときは、ガス・電気・火を消し、戸締まりを忘れずに！

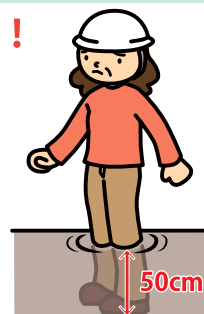
動きやすく安全な格好で！

避難するときは、動きやすく安全な服装で。ヘルメットや防災ずきんで頭を保護する。靴はひもでしめられる底の厚い運動靴を。長靴は浸水が深いと中に水がたまるので動きにくくなる。素足は厳禁！



歩ける深さに注意！

歩行可能な水深は、ひざの高さくらい（約50cm）。水の流が速ければ、20cm程度でも要注意！無理をせず、高所で救助を待とう。



車での避難は控えて



車での避難は緊急車両の通行の妨げになるほか、交通渋滞を招く。また、浸水した場合、水圧でドアが開かなくなる危険もある。

足元に注意する！

水面下にはマンホールや側溝などの危険があるので、長い棒を杖代わりに突き、確認しながら進もう。



集団での避難を！

単独行動をせず、集団で避難する。はぐれないようにお互いの体をロープで結ぶ。



火災予防 10 項目



1 ストープの近くにものを置かない

給油するときには火を消す。



6 風呂の空だきをしない

点火のときは浴槽の水量を確かめる。点火・消火は目で確認する。



2 料理のときはその場を離れない

その場から離れるときは火を消す。



7 住宅用火災警報器を設置する

寝具やカーテンなどは防災製品を使用する。



3 寝たばこはしない

たばこの火はしっかり消す。たばこの投げ捨てはしない。



8 就寝前や外出時は火の元点検

ガスの元栓、煙草の吸殻などの火の元点検を行う習慣をつける。



4 電気器具は正しく使う

たこ足配線をやめる。コードの上には重いものをのせない。



9 子どもにはマッチやライターで遊ばせない

子どもの目につくところに置かない。触れさせない。



5 コンセントにはホコリを付着させない

テレビの裏などは注意が必要。



10 家の周りは整理整頓

放火されないように物を置かない。

火災が発生したら…

① 大声で知らせる

「火事だ！」と大声を出して、隣近所に助けを求める。小さな火でも 119 番に通報する。



② 初期消火を試みる

ボヤでおさめるのは、出火から3分以内が限度。それまでに様々な手段を用いて消火を試みる。



③ すばやく逃げる

天井に火が燃え移ったら初期消火は中断し、煙を吸い込まないように低い姿勢で直ちに避難する。



119番

通報のポイント



！119番通報をするときは、冷静に！

！落ち着いて、火災やけが・病人等の状況をできるだけ詳しく伝える！

火事？救急？

火事か救急の別をハッキリと伝える。

場所をハッキリと！

住所の他に、目標物なども伝える。

建物の種類は？

木造かビルか、また階数なども伝える。

けが人等は？

事故や病気・けがの様子をくわしく伝える。